



独立行政法人 国立病院機構

村山医療センターニュース

理念

患者さんの視点に立ち、良質で高度な医療を提供します。

基本方針

患者さんの権利と意思を尊重します。
安全で優しいチーム医療を提供します。
倫理を重んじ高度で先進的な医療を提供します。
地域医療連携の促進を図ります。
骨・運動器疾患の臨床研究を推進します。
職員は研鑽に励み、健全な経営に努めます。

第60号
2018.1

発行責任者 院長 朝妻 孝仁

新年の挨拶

院長 朝妻 孝仁



新年明けましておめでとうございます。皆様にとって素晴らしい年になりますよう心からお祈り申し上げます。

当村山医療センターにとって、昨年一番大きな出来事は、念願の新病棟建設が始まったところです。新病棟建設が決定し、平成28年11月に行われた第1回目の入札は不落に終わりましたが、昨年2月の2回目の入札で落札され、3月に着工となりました。現在、基礎工事が行われており、平成30年12月の完成を予定しています。騒音等で患者の皆様、周辺のお住いの皆様には、大変ご迷惑をお

かけしていますが、何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

昨年は、医師の増員により診療部門がさらに強化されました。整形外科では1月に矢内嘉英医師、4月に笹治達郎医師、10月に松川啓太郎医師の3名が加わり、常勤整形外科医は18名となりました。これはある意味、大学病院にも匹敵する陣容と言っても過言ではありません。また5月には高松 功医師が麻酔科医長として赴任しました。麻酔科は常勤医師が2名となり、より多くの手術に対応することが可能となりました。さらに11月には埼玉手外科研究所副所長の加藤直樹医師（非常勤）による手外科専門外来が毎週火曜日に始まりました。加藤医師は手外科専門医として豊富な経験と卓越した技術を持ったエキスパートです。手や肘の病気でお悩みの方は是非、一度受診されることをお勧めします。

今後の目標は、築50年以上と老朽化した外来棟、サービス棟及び管理棟の建て替えです。当院はここ数年、職員が一丸となって、経営改善に取り組み、国立病院機構の中でもトップクラスの経営実績を挙げてきましたが、諸般の事情で、未だ実現していません。今年目標は外来棟、サービス棟、管理棟の建て替えを決定することにあります。

今年も“患者さんの視点に立ち、良質で高度な医療を提供する”という当院の理念のもとで、職員一同、頑張っまいますので、よろしくお願い申し上げます。

新任医師の挨拶



リハビリテーション科医師 富岡 曜平（とみおか ようへい）

こんにちは、昨年12月に村山医療センターに赴任いたしました富岡曜平と申します。2年半ほど前まで、当センターで勤務していた経験があります。急性期病院でのリハビリテーション診療の経験を積んだのち、再びこちらで働かせていただくこととなりました。なつかしく思いながら、働いております。当院に入院してきた患者さん、外来通院されてくる患者さんにできるだけ良質な治療、リハビリが提供できるようさらに研鑽を重ねていきたいと考えております。どうかよろしくお願いいたします。

患者さんの権利と責任

1. 個人の人格は尊重され、安全で良質な医療を受ける権利があります。
2. 自分の受ける医療について、十分な説明を受けた上で自分の意思で医療の選択をする権利があります。
3. 自分の受ける医療に対し、不明な点は質問することができ、診療情報の提供を受けたり、開示を求める権利があります。
4. 個人の情報を直接医療に関わる医療従事者以外の第3者に開示されない権利があります。
5. 自分の受ける医療について、別の病院を受診したり転院することができます。その際、十分な診療情報の提供を受ける権利があります。
6. 自分の健康に関する情報を正しく提供し、また他の患者の診療に支障をあたえず、医療従事者と協働して医療に参加する責任があります。

臨床倫理指針

1. 患者さんの人格、信仰、意思等を尊重し、説明と同意に基づく患者さんの自己決定を優先します。
2. 患者さんのプライバシーを尊重し、守秘義務の遵守と個人情報の保護を徹底します。
3. 患者さんの尊厳及び人権に関わる医療については、臨床倫理委員会で審議を行い、方針を決定します。
4. 関係法規、ガイドラインを遵守し、検査・診断・治療・研究を行います。
5. 医療の発展のために積極的に臨床研究を行い、その実施においては倫理審査委員会において十分検討を行います。

感染管理認定看護師の役割・活動

感染管理認定看護師 佐々木 恭兵

感染管理専従1名、病棟副看護師長との兼任1名の計2名で、患者さんとそのご家族、職員など当院に関わるすべての人たちを感染から守ることを使命としています。そのため、以下のような内容をICT(Infection Control Team)のメンバー、看護部のリンクナースなど多部署・多職種と連携・協働して取り組んでいます。

<活動内容>

1. 院内ラウンド

適切な感染対策が行えているか、各部署の環境等を確認しています。良いところはそのまま続けられるように、改善すべきところは改善できるように、「ラウンドニュース」等を作成し、伝達・共有しています。

2. 感染発生状況の把握（サーベイランス）

院内でどのような感染が流行しているのか、また流行しそうなのか早期に探知し、感染の予防、感染が拡大しないための対策がとれるようにしています。

3. 教育

医療機関で働く職員として必要な知識を得るための全職員対象研修や新採用者研修、リンクナースを対象とした勉強会などを行っています。必要であれば、院外（地域）に出向くこともあります。

4. 相談対応

各職場からの患者さんに関わる相談はもちろん、「職員自身が発熱している」、「職員の家族が感染症になった」等の相談にも対応しています。相談に対応していくと共に、マニュアルを整備し、職員誰もが同じ対応が出来るように取り組んでいます。

5. 感染症治療対策

医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職員で構成されたICTメンバーを中心に、それぞれの専門性を発揮し、患者さんに適切で効果的な治療が行えるように検討・提案をしています。

インフルエンザについて

感染管理認定看護師 佐々木 恭兵

只今、インフルエンザ流行真っ盛りという感じでしょうか。

今シーズンのインフルエンザに関しては、ワクチン接種をしようと思って受診してもワクチンが足りないと思われてしまった方もいるかもしれません。ワクチンの製造数の減少・遅れが原因でしたが、徐々に供給体制は整ってきているようです。

さて、ワクチンについてですが、「ワクチンを打ったのにインフルエンザにかかった」というような経験をした方もいるかと思います。これは、インフルエンザワクチンの目的に立ち返ることが必要です。目的には発症を予防することとともに、重症化を予防することがあります。インフルエンザは決して珍しくない病気ですが、重症化すると重篤な合併症を起こしたり、死亡につながることもあります。その状況から、特に高齢者においては重症化を予防する意味でも、ワクチンが定期接種化されています。ワクチン接種時の注意点として1つ、「明日大切な用事があるから、今日ワクチンを打って予防したい」と言っても、それは無理です。ワクチンの効果は接種後約2週間～5カ月と言われているためです。前もっての接種が必要になります。

また、ワクチン接種とともに日々の予防行動が大切になります。インフルエンザが感染していく経路としては、咳やくしゃみの時に出るしぶきが直接鼻や口から侵入する飛沫感染とそのしぶきが環境や物につき、それを介して侵入する接触感染があります。そのため、「咳エチケット」が大切です。ポイントは以下のようなものがあります。

- ①咳やくしゃみが出る時は、マスクを着用する。マスクを持っていない場合は、ティッシュや腕の内側等で口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけ1m以上離れる。
- ②鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ箱に捨て、手の平で咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗う。
- ③咳をしている人にマスクの着用をお願いする。

インフルエンザはかぜに比べ、38℃以上の高熱や関節・筋肉など全身の痛み等があると言われていますが、間違いなくこの症状が出るというものではありません。この時期にかぜっぽい等の症状がある場合には、我慢せず早めの受診を心掛けてください。

予防が一番大切ですが、かかってしまった場合でも早期に治療を行い、インフルエンザの流行期をのりきりましょう。

感染管理を担当している看護師です。
よろしくお願いします。



看護部案内：外来



外来看護師長 中西 裕子

当センターは、骨・運動器疾患の高度専門医療施設として位置づけられています。

外来患者の大半は、腰痛や手術対象疾患が多く、脊髄損傷患者のリハビリテーション科通院など、運動機能に障害を持つ患者さんも多く受診されます。平成 28 年 1 月より外科外来も再開し、内視鏡検査や胃瘻造設・内視鏡下での低侵襲の手術療法を実施しています。専門外来内科ではリウマチ外来、禁煙外来があり、整形外科は側弯外来があります。

平成 28 年度初診患者の 92%は、整形外科が占めており、多くは脊椎疾患・関節疾患・骨折の手術が対象で、整形外科のセカンドオピニオン件数は 32 件でした。

整形外科では、安全に脊椎・関節等手術ができるよう、100 件以上の自己血貯血を外来で行っています。入院説明時には個別性に配慮した説明を心掛け、周術期看護の質の向上に努めています。手術前の禁煙、体重コントロール、弾性ストッキングの着用による皮膚トラブル回避や、歯周病治療の推進等の説明を充分に行うように務めています。骨粗鬆症治療やリウマチ治療薬の自己注射では、外来受診毎に看護師が手技や副作用などの確認・指導を行い、患者教育の充実を図っています。

外科は平成 28 年 1 月より再開し、2 月より内視鏡検査も再開しました。平成 28 年度の内視鏡検査は上部 122 件、下部は 76 件でした。7 月からは外来外科手術も行っており昨年は 9 件行いました。

禁煙外来には平成 28 年度 13 名が初診で受診し、手術予定の喫煙患者や内科呼吸器疾患を持つ患者さんへも推進しています。内科・リハビリ科では、在宅での継続治療への指導を担当し、患者や家族の皆様が安心して生活できるよう支援しています。

また、脊髄損傷患者の痙性治療、脳血管障害患者の四肢拘縮治療に対するボトックス治療や、重度の痙性治療にはバクロフェン髄注療法（ITB 療法）も行っており、外来での薬液補充等定期的なフォローを実施しています。

外来スタッフは、看護師長 1 名、副看護師長 1 名、看護師 10 名（CRC 看護師 1 名含む）窓口担当事務 3～4 名で構成されています。患者さんが治療や入院生活を送る上で、できるだけ安心して治療に臨めるように心掛け、看護を行っています。



讃美歌に癒されたクリスマスコンサート

広報委員長 小山 由紀子

12月は、紅葉が落ち葉になり窓の外の色彩が少なくなるせいか少し物静かな気持ちになります。

今年も一年が早かったと思う頃に数々のクリスマスソングが街中で聞こえています。今年も入院中の患者の皆様には季節感が届けられたらと思いクリスマスコンサートを企画しました。

コンサートを行っていただいたのは、ルーテル学院大学の日本ルーテル神学校聖歌隊の皆様です。聖歌隊の皆様には例年コンサートを行っていただいております、今年は9名来ていただきました。理学療法室の会場には、患者さんと御家族の方で約150名が集いました。

『聖フランシスコの平和の祈り』『もろびとこぞりて』等讃美歌の清らかな歌声に包まれて心が洗われ癒されました。また聖歌隊の皆様と一緒に『きよしこの夜』を合唱しました。久しぶりに大きな声を出して歌った方も多かったのではないのでしょうか。そして、聖歌隊の濃い紫色の制服からサンタクロースとトナカイの衣装に着替えた隊員が『ジングルベル』の歌とともにクリスマスカードをプレゼントしてくださり、患者さんの笑顔が見られスタッフの心も温かくなりました。

またコンサート会場に来られない6病棟の患者さんのために病棟でも歌ってくださり、多くの患者さんに楽しんでいただくことができました。聖歌隊の皆様ありがとうございました。



災害訓練を実施しました



管理課長 荻久保 泰二

平成29年11月18日（土）災害訓練を実施いたしました。当院は、建物も古く災害時には自院の患者の安全確保が精一杯で被災者の受け入れは困難ではないか、ということも言われております。しかし、実際に大規模災害が起これば、当院にも多くの被災者が訪れる可能性が大きいと考えられます。東日本大震災以後、災害医療における役割を果たすことができるよう毎年実施しております。

この訓練は、災害ワーキンググループが中心に準備し実施しております。例年は平日に行っていましたが、通常業務と重なっていることから参加者が限られ、訓練としては不十分なのではないかという意見もあり、今年は土曜日に行うこととなりました。院長、副院長はじめ当院職員の約40%に当たる150名以上が参加しました。それぞれの役割分担のアクションカードに基づき行動し、参加者は皆真剣に取り組み、概ね良好に訓練を行えたと思われます。

訓練終了後、各参加者の振り返りとしてアンケートを実施し、「場所や通路が狭く、スムーズに対応することが難しいように感じた。」「搬送班の人員不足」「実際の災害時は、この人数では足りないと感じた。」「トランシーバーの音が聞き取りにくかった。」という反省意見や感想が多くありましたが、「訓練を行うことでイメージがついた。行って良かった。」という意見もあり、訓練を行うことの大切さを感じました。

今回の訓練での反省点を次回に活かし、今後も訓練を重ねていき、大規模災害に備えられるようにしたいと思います。



病院の入口でトリアージ



黄色エリアでの活動 みんな真剣です



GMは各エリアとの調整に大忙し

武蔵村山市民駅伝競走大会に参加しました!

理学療法士 田嶋 一遊

12月10日に開催された第45回武蔵村山市民駅伝競走大会に、村山医療センターから一般の部に2チーム、女子の部に1チームが出場しました。医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床検査技師など多職種が集まり1チーム6人と補欠でチームをつくりました。

結果は、女子の部が第5位、一般の部が第4位と第9位でした。表彰とまではいきませんが、3チームとも好成績を残すことができました。また、女子チームの第6区を走った宇内景先生(村山医療センターリハ医)が区間記録を達成し、2年連続の区間賞という偉業を成し遂げました。

当日は沢山の職員や地域の方々が沿道からの声援で盛り上げて下さいました。大会前にも院内で患者や職員の方々から多くの応援を頂きました。そのおかげで皆が気持ちよく走ることができました。ありがとうございました。また、写真撮影をして下さった方々もありがとうございました。

出場した職員は「きつかったけど楽しかった」「無事たすきを繋げて良かった」と話しており、応援をしていた職員も含め、村山医療センター駅伝競走部チーム一丸となって楽しむことができた一日でした。

来年も出場予定です。来年はチームを増やして参加しようと考えているので選手募集中です(特に女子)。来年も応援よろしくお願いします(ユニフォーム製作もよろしくお願いします)。



村山医療センターフォトコンテスト2017

管理課長 荻久保 泰二

当院の広報活動の活性化と職員の志気向上を目的として「村山医療センターフォトコンテスト」を行いました。応募対象者は、病院職員だけでなく、委託職員やボランティアの方も応募可能としました。写真のテーマを「村山医療センターで見つけた秋」とし、約2か月間の募集期間に38名から99作品（1人3点まで応募可能）の応募がありました。表彰作品の決定にあたっては、全作品を中央廊下に展示し、投票（患者、面会者等も可）してもらい、その結果を踏まえ、広報委員会にて審査し、院長の承認により決定いたしました。力作揃いで審査も非常に大変でした。

その結果、金賞には医局勤務のマレル支保子さんが輝き、銀賞に医療情報管理室勤務の高森晴子さん、銅賞にリハビリテーション科（作業療法室）勤務の及川奈美さんと2病棟勤務の片岡大己さん、工藤千佳さん、鍋田真衣さん、花上真澄さん4名共作の作品が選ばれました。仕事納めの12月28日に表彰式を行い、受賞者の方々へは、表彰状と記念品が院長から贈られました。

これを機に村山医療センターの広報活動の活性化に繋げていきたいと思っております。



金賞 「歴史を語る大木の並木」



銀賞 「落ち葉と猫」



銅賞 「村山医療センターから
みえた2重の虹」



銅賞 「ほら!秋みつけたよ」



院長と受賞者のみなさん

外 来 診 療 担 当 医 師

■ 一 般 外 来

※受付時間 (初診:8時30分～11時まで)
再診:8時30分～12時まで)

平成30年1月1日現在

診療科等	月	火	水	木	金	備 考		
内 科	片 寄	岡 田	片 寄	岡 田	岡 田			
外 科	大 石	飯 野	松 岡	飯 野	大 石			
整形外科	再 診	脊 椎	○谷 戸 ○藤 吉 ○安 田 加 藤(貴)	○○金 子 山 根 笹 治	○○許 斐 矢 内	小見山 松 川 辻	◎脊髄損傷 ○側弯 脊椎・脊髄 (頸椎・胸椎・腰椎)	
		関 節	清 水		窪 田	吉 原	笹 崎	股・膝関節・下肢
		手		加 藤(直)				手指・上肢
		一 般						
	初 診	交替制						
リハビリテーション科	富 岡	植 村	竹 内		交替制(※) (第4・5金は休診)	※第1金…竹内 第2金…植村 第3金…富岡		
歯 科	宮 本	宮 本	宮 本	宮 本	宮 本	予約制		

■ 専 門 外 来 (全て予約のみ)

診療科等	月	火	水	木	金	備 考
内科リウマチ				片 寄 (13:00～)		予約制
側 弯			金 子 (13:30-15時)	金 子 (第2-4週13:30-16時)		予約制
装具外来 (リハビリ科)	植村/倉片/竹内 (13:00～)					予約制
禁煙外来		岡 田 (午前11:30～)		岡 田 (午前11:30～)	岡 田 (午前11:30～)	予約制

※循環器科、泌尿器科、皮膚科、精神科については、一般外来を行っていません。

診 療 について

診 療 日 月曜日～金曜日 (祝日及び年末年始は除く)
診療受付時間 初診の方 午前8時30分～午前11時00分
再診の方 午前8時30分～午前12時00分

※急患は(整形外科) 随時受付けております。

専門外来については医事窓口にてお問合せ下さい。

毎月初めに保険証の提示をお願いします。変更のあった場合はお知らせ下さい。

独立行政法人国立病院機構 村山医療センター

〒208-0011 東京都武蔵村山市学園2-37-1

TEL 042-561-1221(代) FAX 042-564-2210

URL : <http://www.murayama-hosp.jp/>